# 第13分科会　連携・接続

## 研究課題

## 家庭・地域との連携と異校種間接続の推進における校長の在り方

## Ⅰ　趣　　旨

学校は，「社会に開かれた教育課程」を実現し，学校と家庭・地域が目標やビジョンを共有し，地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」の展開が求められている。また，小・中が連携して義務教育9年間で子どもに培うべき必要な資質・能力を共有し，連続した教育を小中一体となって進めることが求められている。

校長は，地域の核としての学校づくりを学校経営の基盤とし，家庭・地域との互恵性のある（Win－Winの関係）連携と，目標を共有し連続した教育を実践する異校種間の接続について，それぞれの意義と役割を自覚し，ビジョン共有や環境づくりなど「教育環境づくり」を推進していく必要がある。

本分科会では，家庭・地域等との連携と異校種間接続の推進について，地域の実情や子ども一人一人の将来を見据え，地域や学校及び関係機関との連携を重視した釧路管内の取組をもとに，「連携・接続」の鍵となる「ビジョン共有」「環境づくり」の2つの要素に着目して，実効性・波及性のある取組から連携・接続の充実に向けた具体的な方策と成果を明らかにするとともに，これから実践すべき役割と指導性について明らかにしていく。

## Ⅱ　研究発表および討議

### 1　研究発表

連携・接続の推進に向けた「ビジョン共有」と「環境づくり」における校長の役割と指導性

釧路地区　白糠町立茶路小中学校　　大西　展史

#### (1)　研究の視点

①　家庭・地域等と連携し，特色ある教育活動を展開する学校づくりの推進

②　成長の連続性を生かした異校種間接続の推進

#### (2)　研究の概要

これまでの連携・接続の取組の成果と課題を踏まえ，校長会組織及び行政・関係機関との連携を重視した実効性・波及性のある取組を進め，管内の現状や時代の要請に合った「連携・接続」の在り方と校長の果たすべき役割や指導性について明らかにしていった。連携・接続の推進に係る管内小学校の現状を把握するとともに，推進の鍵となる2つの要素（①ビジョン共有，②環境づくり）に即して校長の取組事例を収集し，家庭・地域等との連携や異校種間接続の充実に向けた今後の在り方を追究した。

①　実態把握のため管内の小学校長にアンケート実施

- 「家庭・地域等との連携・協働」に関する取組状況
- 「異校種間の連携・接続」に関する取組状況

②　アンケート結果から見えた連携・接続の課題

- 連携･･･関係者が目標やビジョンを共有し，連携・協働する接続可能な取組を再構築していくこと。
- 接続･･･子どもに培うべき資質・能力を共有し，連続した教育を推進する体制整備を図っていくこと。

＜校長の取組＞

- ビジョン共有…地域連携活動の「基本デザイン」を提案。子育ての取組をリード。各校のグランドデザインを校長会で共有。グラウンドデザインの作成に教職員を参画させる。「目指す大人像」「9年間で育む力」の共有化。一貫教育の推進ビジョンを早期に提示。教職員によるワークショップ型協議の実施。
- 環境づくり…地域連携活動に対する意識改革の働きかけ。校種間連携の取組をリード。各地区のＣＳの取組を校長会で共有。校内体制を整備し，協力体制を構築。「小中一貫教育推進の日」の有効活用。「夕打ち」でミニ研修会を実施。

#### (3)　成果と課題

①　成果

～連携・接続の充実に向けた校長の役割や指導性～

- 取組のとらえ直しを図り，価値を明確にすることができた。
- 関係者の思いや考えを共有する場を整備するこ

とができた。
・関係機関との連携，校長会のつながりを生かすことができた。

② 課題
～連携・接続をより実りあるものにするために～
・連携・接続を一体的にとらえ，長期的な展望をする必要がある。
・人材育成の取組とマネジメント機能の強化をする必要がある。
・活動の整理，業務の改善を合わせていく必要がある。

**2 研究討議**

☆ アナライズカード

Q：地域連携をして特色ある教育をしている。
YES 8 NO 27

Q：異校種間接続の推進に積極的である。
YES 28 NO 7

**(1) 全体討議**

☆ 研究発表に対する質疑応答

Q1 幼少の連携について教えてほしい。

A1 管内の義務教育学校には認定こども園が併設され盛んに行われている。他の学校では，生活科での交流や運動会などで交流している。

Q2 自校も義務教育学校であるが，地域から多々取組が提案され，困っている。今後整理が必要と感じているが･･･。

A2 A村では，元々の組織を生かしＣＳに移行しているのでスムーズである。他では，規模が小さく，Ｂ町の学校で一般職員が担当しているが，ほとんどが教頭。コーディネーターづくりは難しい。学校が主導している状態。

Q3 連携・接続を一体化ということで，本校ではＣＳを基盤に５年経過した。「小中一貫教育の日」やミドルリーダー育成はどのように行っているのか。

A3 連携と接続は一体的な取組で，離してはできない。「小中一貫教育の日」は，町の教育研究所の活動として５年前から全員が集まり年に数回協議している。また，その中で，ミドルリーダーが自校の取組を交流している。

**(2) グループ討議**

☆ アナライズカード

Q：縦・横・斜めのつながりを意識している。
YES 16 NO 19

Q：家庭地域を巻き込んだ取組をしている。
YES 19 NO 16

Q：上記の取組に困難さを感じる
YES 19 NO 16

※「 」内はグループ討議のキャッチコピー

【視点１】家庭・地域との連携・協働に向けたビジョン共有と環境づくりの方策

① Ａグループ･･･「顔が見える つながる」
ビジョンの共有は，会合等で行っている。顔が見える←→つながり。町内会との考え方の違いが課題。地域行事への参加は勤務時間ではないので，異論もあるが保護者や地域の要望ということで参加している。働き方改革との兼ね合いが難しい。

② Ｃグループ･･･「地域⇔学校 ＣＳが重要な役目」
地域と連携した取組は一つ程度。
地域の学校に対する思い→積極的な協力に。
↓ ※互いのメリットが必要。
学校としては負担になることも。

③ Ｅグループ･･･「共に考える」
Ｃ町では幼小連携のモデル校となり，スタートカリキュラムを作成した。各学校の地域性を配慮する必要がある。家庭・地域と共に考えることが必要（９年間を見通したビジョンの共有や組織づくり）

【視点２】異校種間の連携・接続に向けたビジョン共有と環境づくりの方策

① Ｂグループ･･･「学びの連続性 幼保⇔小⇔中 学びをつなぐ」
小中でビジョンの提示と共有を行っている。学びの連続性という観点で作成している。（幼→小→中９）

② Ｄグループ･･･「ビジョンの共有は校長から」
小中連携に積極的な人材を集めるのが難しい。札幌では，小中連携よりも，幼小連携の方が進んでいる。ビジョンの共有は校長が率先して行うことが大切。

③ Ｆグループ･･･「異校種間連携は異校種間理解 ※発達段階における子ども理解」
連携が進んでいないため管理職で交流している。異校種間理解が先→必要な取組を見付けること。

## Ⅲ まとめ

**1 研究討議について**

グループ討議では，大西校長先生の研究発表をもとに各地区の取組を交流し，家庭・地域等との連携並びに，

異校種間接続の推進に向け，鍵となる２つの要素「ビジョン共有」と「環境づくり」に焦点をあて，校長の果たすべき役割と指導性についての議論を深めた。

【視点１】家庭・地域との連携・協働に向けたビジョン共有と環境づくりの方策 について

意図的，計画的なビジョンの共有の場を設定する。学校間連携やＰＴＡ連携を推進する枠組みを構築する。いずれにしても，地域連携の方策や実情については，学校規模や地域性が大きく関わっていることがどのグループの話し合いからも想像できた。

【視点２】異校種間の連携・接続に向けたビジョン共有と環境づくりの方策

９年間で育む力を具体化していく小・中学校の教職員が指導の連携・接続のイメージを共有化して指導にあたる。地区校長間それぞれがまとまりと一体感をもって足並みをそろえて，校長がリーダーシップを発揮していることが交流された。

## 2　成果と課題

### (1) 成果

① 目標やビジョンを描くプランナーとしての関わり（ビジョン共有）

- 地域の実情や児童の現状を的確にとらえ，目標や目指す子ども像，進むべき方向性など明確なビジョンを示し，教職員や家庭・地域に分かりやすく説明する。
- 学校経営のグランドデザインや教育活動推進の基本デザインの作成にあたっては，地域や教職員の思いを組み入れ，相互理解の基盤を構築し教育課程への参画意識を高める。
- 持続可能な教育活動の推進や系統性・連続性のある指導実践の推進に向け，教育課程を見直し，先を見通した指導計画を整備して，向かう道筋を「見える化」し，地域や教職員に共通実践のイメージをもたせる。

② 人や場をつなぐコーディネーターとしての関わり（環境づくり）

- コミュニティ・スクールの枠組みや校長会ネットワークを活用するなど，「連携・接続」の関係者の思いや願い，考えを共有する「場」を積極的に整備し，相互理解を図り共通実践を進める組織体制をつくる。
- 「連携・接続」の取組を組織的で実効性・波及性のあるものにするため，家庭・地域や各学校，教育委員会などの関係機関との連絡調整を密にし，校長会の横のつながりを有効に機能させる。

### (2) 課題

① 「連携・接続」推進の全体像の構築（ビジョン共有）

- 地域連携と異校種間接続を一体的なものとしてとらえ，長期的な展望のもと，推進の全体像を構築していくことが求められる。そのためには，教職員や保護者・地域が分かりやすいグランドデザインや経営ビジョンを構築して教育活動のねらいや結果を共有し，教育課程への参画意識を高めていくことが必要である。

→「社会に開かれた教育課程の実現」

② 人材育成・人材発掘に向けて

- 「連携・接続」を推進する人的資源を育成・発掘するため。学校にあっては，担当部署や役割を明確にして必要感・実感・達成感をもたせ，カリキュラム・マネジメントの当事者としての意識を高め，地域では，積極的に地域住民と関わり地域ネットワークを築くなど，校長のコーディネート機能を高める必要がある。

③ 教育課程の見直しと多忙感の軽減

- 「連携・接続」の推進が教育活動の肥大化や業務の多忙につながらないよう，教育活動の整理や活動内容の工夫改善など，学校経営の重点に即した教育課程の見直しと，教職員の多忙感・負担感の軽減に向け，働き方改革を意図した業務改善に努める必要がある。

### 「第13分科会に参加して」

弟子屈町立川湯小学校　**中　岡　美　緒**

本分科会では「家庭・地域等との連携」「異校種間接続」を研究課題とし，「地域とともにある学校づくり」への転換に向けて，校長はどのようなリーダーシップを発揮しなければならないかを討議しました。

まず，白糠町立茶路小中学校の大西展史校長が，「連携・接続の推進に向けた『ビジョン共有』と『環境づくり』における校長の役割と指導性」と題し，釧路地区での実践について発表しました。筆者も釧路から参加しているため，内容については熟知していましたが，他地区の参加者からの質疑応答に，改めて地区の実践を検討することができました。また，アナライズカードによる傾向の把握やキーワードを確認する討議の工夫により，他地区との実践交流がよりスムーズになったと感じています。

様々な地域事情や教育環境において，各校の校長先生がよりよい学校づくりのために日夜邁進されていることがわかり，新米校長としては今後のコミュニティ・スクール運営や保育園・中学校との連携の在り方について，たくさんのご示唆をいただくことができました。心よりお礼申し上げます。